

2015年度 プール学院中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

プール学院のミッションは「キリスト教の精神を根底とする霊的人格教育」をもって、社会に奉仕することである。ミッションステートメントに基づき、今年度の目指す人間像を「生徒一人ひとりが輝き、他者を思いやり、自立し、生きる力をつけ、探究できる人」とする。

2 中間目標

1. 生きる力をつけるために基礎学力の充実と進路指導を強化する
 - ・生徒達に自主的な学習への取り組みを促す
 - ・キャリア教育において各学年具体的な企画を考える
 - ・進路指導における具体的な強化スケジュールを作成する
 - ・教員の研修も積極的に行う
2. 生徒一人ひとりが輝くために、何ができるか
 - ・生徒にとって感動のある行事を企画し、経験させる
 - ・自主性や探究心を育てるためにクラブ活動を支援する
 - ・明るく活気のある学校生活を送れるよう、マナーやルールを守るよう指導する
3. グローバル感覚と人権意識を高める
 - ・日々の礼拝を充実したものにする
 - ・グローバルチャレンジプログラムの実施と充実
 - ・地域貢献とボランティア活動の参加を促す

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析(2015年11月実施)	学校評価委員会からの意見
<p>○ 生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール学院全体で、生徒であることに誇りを持っている割合は75%以上である。「学校が楽しい」、「施設についての満足度」も高い割合である。一方、中学生において教員に対する信頼度や「先生はいろんな相談に応じてくれる」(66%)「わからないことを先生に質問、相談する」(57%)と低いものの昨年より信頼は回復しつつある。 <p>○ 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの質問に対して肯定的であった。特に「楽しく学校に通っている」(90%)「誇りを持っている」(90%)「設備や施設に満足している」(90%)一方、スクールカウンセラーの取り組みには理解がされていない面もある。生徒一人ひとりに対してもっときめの細かい指導と保護者に対し情報を的確に発信することが課題である。 <p>○ 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員はすべての項目において生徒に対し誠実に向き合い、日々努力をしている結果が出ている。当然のことではあるが、生徒・保護者がどう感じているかを真摯に受け止めることが大切である。「校内外の研修」や「災害時の役割分担」との項目で課題が見える。 <p>○ 分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に対する信頼感の年々向上はしているものの、ひとり一人の生徒、保護者の満足度をより一層上げる必要がある、そのための教科・生徒指導の研修は不可欠である。21世紀型の新たな教育方法も取り入れた実践も必要とされている。今後もこの評価に基づいた反省と課題に向き合いたい。 	<p>今年度の評価は、生徒アンケートの結果を中心に昨年度のデータと比較し、プラス評価とマイナス評価に注目して問題点を指摘された。プラス評価では、「先生の信頼度」が最も大きく数字を伸ばした。これは、中学全体の生徒数が188名と少なく、きめ細かく指導ができていたとの分析である。生徒一人ひとりを大切にする教育が行われていて、保護者も信頼を寄せているとの評価である。また、教員が一丸となって生徒達に向き合っている姿勢も信頼度を大きく伸ばした要因であるとも分析している。</p> <p>結果として好感度は上がっているが、「至れり尽くせり」の教育が、生徒の自立に大きく結びつかず、先生離れが上手にできていない。その結果、大学進学実績に結びついていないのではないかと。教員のきめ細やかな指導の賜物の結果ではあるが、課題でもある。との指摘もあった。</p> <p>同じように、宗教教育による人間形成と進学・進路実績とのバランスはとても困難ではあるが、どちらに偏ることなく子ども達を教育して欲しいと願っている。との意見である。</p> <p>また、以下のような提案もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な数字を得るために、設問によっては対象学年をしぼる。 ・入学者確保のために様々な取り組みを行う。 ・保護者アンケートの回収率アップのために工夫する。 ・評価報告の開示報告について考える。 <p>まとめの意見</p> <p>「生徒数が少ない今こそ、これを最大の武器と考え、生徒一人ひとりを大切に育て、探究できる女性にして社会に送り出して頂きたいと願っている。社会は女性の活躍を大きく望んでいる。女子校だからこそ、出来る教育を見出してそれを前面に打ち出して頂きたい。評価委員一同、新たなプログラムが少しずつ実ってきていることを感じており、大いに評価し応援している。」</p>

3 本年度取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生きる力をつけるために 基礎学力の充実と進路指導を強化する	<p>(1)基礎学力定着のために ア、意欲もてる授業</p> <p>イ、英検の取り組み強化</p> <p>ウ、自主的な学習の取り組み</p> <p>(2)キャリア教育と進路指導 ア、各学年におけるキャリア教育の充実</p> <p>イ、進路指導における具体的な強化スケジュールの作成</p> <p>ウ、高大連携の企画と協定</p>	<p>ア、①授業アンケートの実施(11月)</p> <p>②各教科のPDCAサイクルの実施</p> <p>イ、①年3回の英検は中学では必修 高校にも積極的な参加を進める</p> <p>ウ、①勉強合宿 参加者数 中 36名 高125名</p> <p>②S文理コース居残り補習</p> <p>ア、①中1 キッズニア グリーン運動 ②中2 実習生に聞く バルナバ病院見学 保育園訪問 ③中3 適性検査実施 卒業生(キャビンアテンダント) から話を聞く、介護施設訪問 ④高1 夢ナビ参加、適性検査 ⑤高2 大学模擬授業 ⑥高3 大学説明会</p> <p>イ、①中学学力推移調査</p> <p>②高校模擬テスト、スタディサポート</p> <p>ウ、①PTA大学体験ツアー 同志社女子大学高大連携 大学体験ツアー 医療系学部体験授業 神戸女学院大学高大連携 サイエンスキャンプ 書評コンテスト</p>	<p>①5教科のアンケート結果では、高校の理解度は国語72%、数学53%、社会72%、理科50%、英語61%。中学では国語73%、数学73%、社会68%、理科63%、英語68%であった。</p> <p>②各教科のPDCAサイクルは、5月に今年度の方針と重点目標を設定し、年度末にPDCAを完成させた。</p> <p>①中学3年間82名の結果は2級3名、準2級24名、3級36名、4級19名である。高校は希望者受験で2級31名である。</p> <p>①②「学校で行われている補習や講習は大学受験の対策として、ためになる。」の質問に対し、肯定的な意見は57%で昨年度と変化は少ない。保護者は同じ質問に対し、72%の肯定的な意見だった。「勉強合宿、自学補習、取り出し補習(中学)の取り組み」に対しては、中学保護者は83%、高校保護者は72%の肯定的な回答を得ている。</p> <p>①②③ 中学生で60%以上が「進路関係の行事、体験学習が将来の職業などを考える機会となっている」に肯定的である。</p> <p>④⑤⑥ 高校生でも同じ質問に対して60%以上が肯定的であった。「進路説明会は、自分の進路を考えるために役立つ」との質問に対しては、64%の肯定的な回答を得た。</p> <p>①「学習についてわからないことがある時は、先生に質問や相談をしようと思う」の質問に対しては68%の肯定的な回答を得た。</p> <p>②同じ質問に関しては、67%の肯定的な回答を得ている。「進路指導において、生徒のニーズに合致した情報を得よう努力している」の質問では、96%の肯定的な回答を教員から得ている。</p> <p>①保護者の理解や関心を寄せるために大学体験ツアーを企画した。同志社女子大、神戸女学院大とは連携協定を結んでいる。</p>	<p>①昨年度と比べると中高とも教科別では、大きな変化は見られない。学校が楽しい生徒は80%、誇りを持っている生徒も78%と昨年を上回っている。学校全体では落ちついて学習に取り組んでいる。</p> <p>②今年度より実施したPDCAサイクルは各分掌、学年、教科に提出を求め、完成させた。様式が様々で統一する必要があるが、来年度に向けた目標や方針が立てやすく、学校全体で前向きな姿勢を創っている。</p> <p>①中学は英検を強化して3年目を迎え、8割近くが3級まで取得している。納得のいく結果が出ている。高校も公立からの入学者に対しても一層強化をしたい。</p> <p>①②教員にとって準備や運営にエネルギーは費やされるが、一貫特進が高校に進学し、勉強合宿にも慣れ、成果も期待される。高校から入学する生徒にとってはハードな学習の形態ではあるが、今後の自主的な学習に繋がってほしい。</p> <p>①②③ 昨年同様、中学生に対しては事前、事後の細かい指導ができていて、効果も大きい。昨年から継続で地域との結びつきも強くなり、評判も良い。</p> <p>④⑤⑥ 夢ナビや卒業生の話は高校生にとって、興味・関心は高い。将来の生き方について、イメージを持つ機会は増えている。実際の学習の具体的な方法とは結びつかないのが課題である。</p> <p>①中学生の学力推移調査はここ数年偏差値は上がっているが、教科によっては弱い学年もあり、日々のきめ細かな指導と、テストに向けた対策を今後も続けることが必要と思われる。</p> <p>②日々の指導や対策は各教科熱心に取り組んでいるが結果として納得のいく数値が出ていない。中学の学習内容より量的にも多くなり、視点を変えた指導法や対策が必要かもしれない。</p> <p>①保護者、生徒が意欲をより深く持つことができた。特に体験型授業においては参加した生徒が今後受験を考える上で、選択肢の一つとして考えることになるだろう。</p>
	生徒一人ひとりが できる力を 輝かせるために、	<p>(1)生徒指導と自治会活動 ア、感動できる行事の企画</p> <p>イ、クラブ活動の充実</p> <p>ウ、日常生活でのマナー指導</p>	<p>ア、①生徒自身が積極的に関わり、達成感や充実感のある行事の実施</p> <p>イ、①クラブ活動を通して行動力や自主性の訓練</p> <p>ウ、①挨拶の徹底</p> <p>②生活面のマナー指導</p>	<p>①「校外活動の内容は充実している」の質問に対し、中学は79%、高校は69%が肯定的な回答であった。「体育祭、文化祭、合唱コンクールなどの自治会行事」に対しては、中学で90%、高校で72%が肯定的であった。</p> <p>①中学で77%、高校で69%以上がクラブ活動は活発に行われている、と感じている。</p> <p>①全体で90%が「登下校時には先生や友人に挨拶をする」と回答している。</p> <p>②「登下校のマナーに気を付けている」の質問に85%以上が肯定的な回答をしている。</p>
グローバル 感覚と人権意識を 高める	<p>(1)宗教教育と社会貢献 ア、日々の礼拝の充実</p> <p>イ、地域貢献とボランティア活動</p> <p>(2)国際理解教育 ア、国際プログラムの実施</p>	<p>ア、①生徒の主体的な礼拝と教員の礼拝参加</p> <p>イ、①保育ボランティアと施設訪問の実施</p> <p>②タイボランティア・スタディーツアーとプール・相馬つながるプロジェクト</p> <p>ア、①高校生対象に グローバルチャレンジプログラム ニュージーランド3ヶ月留学、 イギリス1ヶ月留学、 カナダ1年留学</p>	<p>①「礼拝は大切な時間だと思う」の質問に対して、中高全体で、70%の肯定的な回答を得ている。</p> <p>①②全体で「宗教行事を通して、ボランティア活動を身近に感じるようになった」の質問に対して、60%が肯定的な回答である。</p> <p>①「学校は、カナダ・オーストラリア研修やイギリス、韓国の姉妹校との交流を通して、国際教育を推進している」の質問に対して、89%の肯定的な回答を得ている。</p>	<p>①日々の礼拝において、集合状態がよくなっている。ボランティア経験の発表や音楽による賛美礼拝は生徒達に身近なものとして心に響くところが大きい。又、一般教員による礼拝も新鮮である。</p> <p>①保育のボランティア、介護施設訪問は中学生が実施しているがその経験は将来の進路にも影響を与えるだろう。高校の介護施設訪問も例年高Ⅲ生が大学推薦後に実施され、意味も大きい。</p> <p>②タイのボランティア・スタディーツアーは中身が充実しており、参加生徒の心の成長が大きい。相馬つながるプロジェクトは今年度で終了するが、今後のことが課題である。</p> <p>①今年度、ニュージーランド3か月の留学と、イギリス1ヶ月の留学を実施した。どちらも参加した生徒達は充実感が大きかった。今後の進路や活躍が期待される。</p>